

ぶんごわ〜るど

Bungo World

『ぶんごわ〜るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報です。この会報では、主に、協会の活動やOBOG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。

新体制でスタートしました！

2020年から様々な社会活動に影響を及ぼしていた新型コロナウイルス感染症も、2023年5月8日からその感染症法上の位置づけが「5類感染症」になり、世の中にもようやく活気が戻ってきました。JICA海外協力隊も一時はすべての国から一時帰国・派遣中止になりましたが、現在は59カ国、725名が派遣される（2023年3月31日現在）までに回復しました。そのような中、2023年5月21日(日)には当会の令和5年度定期総会が開催されました。今回の総会では役員10名中5名が改選されました。新役員の加入で、今までよりさらに多様な形での活動が展開できるのではないかと期待しております。

その最初のイベントとして、2023年4月22日(土)にJICA研修生との交流野外お茶会を別府市志高湖で開催しました。JICA研修生、当会会員の他、立命館アジア太平洋大学（APU）国内学生や一般参加者も一緒に、春の陽が降りそそぐ志高湖畔で、講師の指導の下お互いお茶を点て合い、日本の心を体験しました。お茶体験の後は皆、思い思いに志高湖の自然を楽しみました。JICA研修生にはスワンボートが人気のようでした。

このイベントはAPU学生オフィスと共同で行いましたが、今年度の役員改選でAPUやAPU学生オフィスと関わりがある新役員が加入したことで、このようなイベントが大変やりやすくなりました。

さらに、2023年8月5日(土)にはAPU学生オフィス主催のJICA留学生等の交流味噌作り体験会にも参加しました。JICA研修生の中には、前回の野外お茶会にも参加していた人も多く、再び会えたことを喜び合うことができました。世界各国



味噌づくり体験



志高湖での野外お茶会



糸が浜でのBBQ大会

からの留学生をはじめとした参加者それぞれが味噌と麴を練り合わせて団子状のものを作りました。作った団子はひとつの大きな樽に投げ込まれ、その中で合わさって半年ほど発酵されることになっています。半年後国際的な味噌ができるのが楽しみです。

また、2023年8月20日(日)には恒例になりつつある、夏休みBBQ大会が日出町系が浜海浜公園で開催され、多くのOB・OGが家族連れで参加して夏

のひと時を楽しみました。今年も料理隊員が繰り出す、チミチュリソース（パラグアイ）のシュラスコやジャークチキンと言ったOB会ならではのBBQに舌鼓を打ちました。会長宅で採れたコブミカンの葉やレモングラスの茎を使ったトムヤムクンも香りが良いと好評でした。

来年もまたここに集まり、OB・OGの家族ぐるみの付き合いがもっと発展していけたらいいと思います。

ボリビアからの活動報告

2022年度2次隊 ボリビア 助産師 小野 衣美

Mucho gusto. (スペイン語ではじめまして) 2022年11月より、ボリビアで助産師として活動中の小野衣美(えみ)と申します。今回は、ボリビアと私の活動について、紹介させていただきます。南アメリカ大陸の西部に位置するボリビアは、高山地域、渓谷地域、熱帯地域の3つに分けられ、それぞれの地域が固有の文化を持っています。気候、食文化、伝統衣装やお祭りなど様々な面においてバラエティ溢れる国です。日本から遠く離れていますが、サンタクルスという場所には「OKINAWA」という日系人の町もあり、古くから日本との関係が深い国でもあります。近年は、日本の観光客も多く来訪しており、皆さんも「ウユニ塩湖」と言われると、あの国か!と思われるのではないのでしょうか。

私は、ボリビアの中心部に位置するコチャバンバという場所にあるNGOで活動しています。私の所属するNGOは、胎児期から2歳までの人生最初の1000日間に大切なことをテーマに、妊娠中から2

歳までのお子さんを持つ女性達とその家族、学生達に様々な授業を行っています。主な活動は、母親父親学級で妊娠中から産後にかけての体と心の準備についてお話させてもらったり、子どもの体に優しいおやつ教室を行ったりしています。母乳育児や産後の体の回復についてなど、個別のお悩みに対応させてもらうこともあります。まだまだ医療水準が低く、健康保持する為に必要な知識を得る機会の乏しいボリビアにおいて、私の所属するNGOはとても貴重な存在として活躍しています。また、NGOには、6か月から7歳までの子どもを対象とした保育園・小学校が併設されていますので、手洗いや歯磨きなど基本的な生活習慣に関するお話や健康観察など、保健室の先生的な活動もさせてもらっています。日本とは習慣や考え方が大きく異なりますので、大変なこともあります。可愛い子ども達と協力的な心優しき同僚達に囲まれて、毎日楽しく活動しています。

ボリビアでの生活についても紹介させていただきます。私の趣味の1つが料理ということもあり、休日はボリビア人の同僚や友人のお宅と一緒に料理をしていることが多いです。ボリビアの中でも、コチャバンバは「美食の町」と呼ばれ、とにかくみんな食ることが大好き。1日5食という人も珍しくなく、し



NGOの子ども達と



子どもの体に優しいおやつ教室



ボリビアの伝統料理 PIQUEMACHO

ストランで出てくる料理の量も桁違いです！また、冒頭でもお話ししましたが、各地域が固有の文化を持っており、それぞれのエリアに伝統的なダンスが存在します。人が集まり、楽しくなると必ずと言っていい程踊るのですが、子どもから大人まで本当に上手です。イベントに招待していただくことも多く、今やダンスは必須スキルのひとつです。同僚に教えてもらいながらボリビア伝統のダンスも練習中です♪

ボリビアは、南米最貧国のひとつであり、経済・医療・教育・治安など多方面で多くの問題を抱えて



伝統舞踊TINKUS

はいますが、子ども達の笑顔と太陽の光あふれる情緒豊かな国です。日本から遠く離れてはいますが、これを機に一人でも多くの方に興味を持っていただくと嬉しいです。この記事が発行される頃、日本は夏から秋にかけて、季節の変わり目かと思えます。風邪などひかれませんようご自愛ください。

多様性時代のあり方をさがして

2022年度3次隊 モザンビーク 障害児・者支援 緒方 李心

初めまして、日田市出身の緒方李心（おがたももみ）です。2023年1月から、障害児・者支援という職種でモザンビークに派遣されています。

ところで、モザンビークという国を知っていますか？日本に住んでいるとあまり聞き慣れない国名かもしれません。実は私も、JICA海外協力隊に応募するまで、この国がどこにあるのかさえ分かっていませんでした。正式にはモザンビーク共和国といい、アフリカ大陸の南東部に位置する国です。日本の2倍ほどとなる国土面積に約3036万人の人々が暮らし、インド洋に面した美しい海岸があります。季節は雨季と乾季に分かれており、気温は10～40度で推移します。

私の配属先は、エドアルド・モンドラーネ・インクルーシブ教育リソースセンターという名前の学校です。モザンビークに3校あるインクルーシブ教育のモデル校の1つで、首都マプトから車で3時間ほどのガザ州マシアにあります。ここには、1～12年生までの児童・生徒約350人が在籍しており、そのうちの半数ほどが何らかの障害（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・知的障害など）を持っている方々です。インクルーシブ教育とは、障害のある人もない人も同じ場で共に学ぶ教育のことなのですが、こ

の学校ではそれが実践されています。

校内では日常的に手話が飛び交っており、教員も皆、程度の差はあれ手話が使えます。もちろん授業中もそれが活用されていますが、場合によっては教員の言葉を生徒が同時手話通訳しながら学習が進んでいくこともあります。初めてそんな様子を見たときは大変感心しました。



授業中の様子

というのも、それがごく当たり前の流れであるといった雰囲気があるにあり、そういった認識のもと、立場に関係なくそれぞれの力を活かしながら授業がつけられていることに大きな意味を感じた

からです。大人が堂々と子どもを頼れるというのは素敵だなと思います。そして、こういった環境の学校だからこそ、様々な特性を持った人たちと自然に関わる人材に育っていくのだろうと彼らの将来を頼もしく思いました。

さて、そんなこの学校で私は、視覚教育（日本での図工・美術にあたる教科）の教員として活動しています。現場から求められていることは、日本で培った特別支援教育の知見を現地教員の方々に伝えながら、それぞれの児童・生徒の能力や実態に合わせた実技指導ができるよう授業づくりを支援することです。

現在は、視覚教育の授業に補助教員として入り支援すること、



寄宿舎の生徒たちと

校内の寄宿舎で寄宿生に向けたアクティビティをすることが毎週のルーティーンとなっています。こちらの子どもたちの学習を見ていると、日本では考えられないような段階で躓いていることも多々あり、どうしたことかと頭を抱えることもしばしばです。しかし、その過程のなかで、最貧国といわれるこの国の背景がより鮮明に見えてきたり、私の思考や発想が今までにない方向に広がりを見せたりといった恩恵も感じられます。そして、私たちの働きかけから子どもたちに変化が感じられたときは、何より大きな喜びを受け取っています。彼らの笑顔を守り、豊かな情操を育むことを目標に、今後も活動を発展させていきたいです。



海辺のアカシア

2022年度後半 行事報告

ワールドフェスタ

大分市とJICA九州は、10月6日の「国際協力の日」にちなみ、10月の1か月間を「おおいた国際協力啓発月間」と定めています。そのメインイベントとして、毎年、「おおいたワールドフェスタ」が開催されており、2022年には11月5日(土)に大分市のお部屋ラボ祝祭の広場で開催されました。このワールドフェスタに当会からも出店して、スリランカ風パンケーキとタイ・チェンマイの有機コーヒーの販

売を行いました。スリランカパンケーキとは小麦粉や卵にバニラやココナッツミルク加えた生地で焼いたパンをシナモンやココナッツファインでスリランカ風に香り付けした餡を巻いたものです。スペースの関係で別の場所で調理して、フェスタ会場では加熱だけして販売しましたが、売れ行き好調で、調理担当は作っても作っても追いつかず、ついに材料がなくなり販売終了となりました。

同じブースの一部でラオスOG・OBがラオスのもち米の試食や民芸品の販売も行いました。



ワールドフェスタ販売ブース

国際交流バドミントン大会・調理会

2023年2月5日(日) 大分市コンパルホールでバドミントンをした後、調理室でインドネシア料理を作ってみんなで食べました。当初予定していたインドネシア人技能実習生の多くがフットサルの試合と予定が重なったとのことで、インドネシア人は数名だけの参加での寂しいスタートとなりました。しかし、その間に、バドミントン初心者の日本人参加者

も、何とか練習してゲームができるようになったころ、フットサルを終えて帰ってきたインドネシア人も加わり、初心者、上級者、入り混じっての楽しい交流試合を行うことができました。簡単なインドネシア語講座の時間も入れたので、試合中はダブルスのペアがお互い「バグス（ナイス）」、「サヤンスカリ（惜しい）」、「マアフ（ごめん）」などと声を掛け合っていました。お腹を空かせて（特にフットサルに引き続いてのインドネシア人実習生の皆さん。お疲れさまでした！）調理室へ移動したあとはOGの



バドミントン参加者

指導によるインドネシアのスダダ地方の料理の調理を行いました。ナシクニン（ウコンご飯）、アヤムゴレン（鶏のから揚げ）、ブルクデル（ジャガイモコロッケ）、テンペ（大豆発酵揚げ）、テルールゴレン（卵揚げ）サンバルトラシ（唐辛子発酵アミの調味料）と言った多品目の料理をみんなで力を合わせて作りました。料理が完成したころには参加者み

んながすっかり打ち解けて、何も言わなくてもインドネシア人、日本人だけで固まることなく、皆で混じりあってご馳走を楽しむ姿を見ると、良い交流会だったなと感じました。食事の後も、皆で協力して後かたづけをしました。そして、別れ際には皆、口々に「サンパイジュンバ（また会いましょう）」と声を掛け合っていました。



大作完成で記念写真



みんなで「いただきま〜す！」

参加者の感想

こんにちは。私は令和4年の秋募集でJICA海外協力隊に応募した鈴木穂乃花と申します。まだ協力隊の経験はありませんが、平成21年3次隊でパラオに派遣された飯野亜美さんに誘っていただき、2月5日(日)に行われたバドミントンと、インドネシア料理教室に参加しました。バドミントンでは、インドネシア人の方とペアを組み、『Bagus!（バグス/いいね）』や、『Sayang Sekali（サヤンスカリ/惜しい）』など、インドネシア語で声かけをしながら楽しく試合をすることができました。運動をした後は、みんなでインドネシア料理を作り、食べました。私の担当したSambal Terasi（サンバルトラシ）というソースは、大量の唐辛子を入れたピリ辛ソースだったのですが、どの料理につけても合い、美味しかったです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

※なお、鈴木さんはその後試験に合格し2023年度3次隊でベトナムに派遣される予定です

ネパール人との交流会

大分ネパール友好協会が毎年参加している別府の湯ぶっかけ祭りに当協会からも一緒に参加させてもらうことになり、まず、お互いを知り合うために食事会を行いました。別府市にある通称「ネパールハウス」に集まり、ネパール人のリーダーの指導のもとみんなでネパール料理を調理して食べました。ネパールOB・OGも3名参加し、他の日本人には分か

らない言語での、分からない内容の話が交わされていたようです。それにしても、このネパールハウス、人の行き来が多いところで、ネパールだけでなくいろんな日本人もやって来て、協力隊に興味があるといった人もいて、いろいろと交流することができました。

こうして、大分ネパール友好協会の人たちとも仲良くなったあと、2023年4月2日(日)湯ぶっかけ祭りに参加しました。湯ぶっかけ祭りとは、タイの水かけ祭り（ソクラン）のお湯バージョンみたい



「ネパールハウス」にて

な感じですが（別府温泉のお湯が使われる）、違うのはお湯をかける側とかけられる側が分かれています。このお祭りに参加するという事は、お御輿を担いで、別府駅前通りを何往復もして、沿道にいる、あらゆる放水器具を使って放水してくる観客の標的にされるということです。お御輿の上には若い女性が乗っているチームが多く、格好の標的になっているようでした。といっても下でお御輿を支えているわれわれも、やっぱりびしょびしょになります。まだ4月だというのに、頭から水浸しに（かぶった時点ではお湯であるがすぐに冷める）になって、なんて馬鹿なことをしているんだと思えるけど、この馬鹿らしさが一体感の原動力になるのか、お御輿

を担いでいると妙に楽しく感じます。嘘だと思う人は是非来年試してみてください。



湯ぶっかけ祭り



ネパールチームと一緒に

O B / O G は 今

コーヒープリュージョーニングトーナメントジャパン(CBTJ)2023で優勝しました!!

2018年度3次隊 ルワンダ コミュニティ開発 椎原 渉

コーヒー農家の栽培支援のため、ルワンダに赴任して約1年半、コロナ禍の発生で帰国を余儀なくされましたが、念願だったコーヒー業界での事業開始を目指して東奔西走、伝手を頼って、中古の小型焙煎機を購入、古民家に間借りさせてもらい、玄関部分を改装、昨年5月、大分市花高松にコーヒー豆の挽き売り専門店「Create Coffee Lab」をオープン。

開店前に取得したコーヒー豆の鑑定士資格・Qグリーダーを活かして、世界各国のコーヒー豆を厳選、全商品ティasting（試飲）OKを掲げたところ、味わった事がないコーヒーがあると、地元住民の皆様からも受け入れられ、まずは順調なスタート。

試飲用コーヒーを抽出するため、一日に数十杯分はハンドドリップする日々。カップング（コーヒーの風味を鑑定する事）を繰り返し、自分なりの抽出方法を見つけていきましたが、ある日ふと「自分の腕前は、どの程度のレベルなのだろう？」。

折よく、コーヒー販売会社「SNOW BEANS COFFEE」（東京都）主催、コーヒー抽出の技量を競う「コーヒープリュージョーニングトーナメントジャパン（CBTJ）2023」の事を聞き、腕試しのつもりで出場を決意。

本大会は2018年から韓国でスタート。日本初開催の今大会には、自分も含めて64名のバリスタが出場。運営側が用意したコーヒー豆を粉砕、規定時間以内に規定量のコーヒーを抽出する。抽出方法はエスプレッソ以外であれば何でもOK（ペーパーリップ、フレンチプレス、エアロプレス等）。

評価基準は「ネガティブ（雑味）の少ないコーヒーであるかどうか」。その上で、各種風味のバランス、飲んだ後の余韻等を評価。組み合わせの妙なのか、気が付けば決勝戦に。最後の大一番、もう優勝するしかない！慎重にお湯を投入、会心の一杯を抽出できました。

後日、審査員諸氏から「ネガティブさが全く感じ

られない」「飲んだ後、甘みの余韻が長く続いた」等の評価を頂いたと知り、バリスタとしての成長を実感、やっと「優勝したのだ…」との感慨にふける事が出来ました。

しかし、今回の優勝は、コーヒーの師でもある、以前の職場・三洋産業（別府市）の中塚社長、同社



会心の一杯を抽出

の上司や先輩、同僚、そしてお客様のご支援とご協力の賜物だと、慢心を戒め、さらに元・海外協力隊員として「グローバル（グローバルとローカルを組み合わせた造語。地球規模で物事を考えつつ、地域の実情に配慮して行動する）」をモットーに、故郷・大分のコーヒー文化振興のため、活動して参ります。



表彰台の真ん中で

行事報告

2023年

4月	JICA研修生との野外お茶会（22日）	別府市志高湖湖畔
	協力隊ナビ（14日）	大分市iichiko総合文化センター1階
5月	協力隊ナビ（12日）	大分市iichiko総合文化センター1階
	2023年度 大分県青年海外協力協会 総会（21日）	
7月	2023年度一次隊壮行会（5日）	大分市紙ふうせん中央町店
8月	JICA研修生との味噌作り体験会（5日）	別府市APUカフェテリア
	野外BBQ大会（20日）	日出町系が浜海浜公園

※協力隊ナビとは？

ICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。これまで大分市iichiko総合文化センター1階で開催してきましたが、今年度からはそれ以外の場所での開催も計画しています。協力隊事業に興味をお持ちの方は是非お立ち寄り下さい。また、OB・OGの方におかれましては懐かしいメンバーや未来の協力隊員達に会えるかも知れません。『海外協力隊』のノボリが目印です！

今後の行事予定

2023年

9月	会報「ぶんごわーど」発行	
10月	2023年度二次隊壮行会（13日）	
	協力隊ナビ（20日）	大分市iichiko総合文化センター1階
11月	あおいたワールドフェスタ2023ブース出店（5日）	大分市お部屋ラボ 祝祭の広場
	協力隊ナビ（9日）	別府市APUカフェテリア
12月	協力隊ナビ（8日）	大分市iichiko総合文化センター1階

2024年

1月	2023年度三次隊壮行会（未定）	
2月	インドネシア人との交流バドミントン・食事会（28日）	大分市コンパルホール

派遣隊員

2022年度2次隊

小野 衣美 ポリビア 助産師（佐伯市）

2022年度3次隊

緒方 李心 モザンビーク 障害児・者支援（日田市）

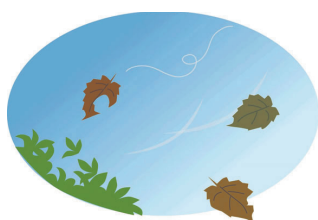
2023年度1次隊

穴井 祐介 ガボン コミュニティ開発（大分市）

水上 友美 ソロモン 看護師（国東市）

高岡 志津代 ベリーズ 青少年活動（九重町）

※ガボンは政情不安のため派遣見合わせ中



県庁表敬時の小野さん



県庁表敬時の緒方さん



2023年度1次隊壮行会にて

JICA海外協力隊とは？

JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業で、開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った人材を募集し、選考、訓練を経て派遣します。

2019年度より従来の派遣体系などを見直し、JICA海外協力隊として、「青年海外協力隊（および日系社会・青年海外協力隊）」を中心としながら、一定以上の経験・技術が必要な案件に対応する「シニア海外協力隊（および日系社会・シニア海外協力隊）」を派遣しています。

1965年の発足以来すでに青年海外協力隊／海外協力隊で93か国へ46,640名、シニア海外協力隊で78か国へ6,620名（2023年3月31日現在）が派遣されてきました。現在も青年海外協力隊／海外協力隊が59カ国、725名、シニア海外協力隊が26か国56名が派遣され、現地の人々と同じ言葉を話し一緒に生活しながら、開発途上国の国造りのために協力しています。

詳しくは大分県青年海外協力協会または国際協力機構九州国際センター（Tel093-671-6311）、大分県企画振興部国際交流室（Tel097-506-2129）またはICAデスク大分国際協力推進員 金谷彩生さん（Tel097-533-4021）へお問い合わせください。当会でも定期的に協力隊ナビを実施して、OB・OGの体験を通じての派遣に関わる悩み等の相談を行っています。

大分県青年海外協力協会 会報

『ぶんごわ〜るど』

令和5年10月発行 第71号

発行：大分県青年海外協力協会

URL:<https://www.facebook.com/協力隊ナビ大分県-383808184980666/>

★皆さまのご意見・ご感想、お便りをお待ちしています。

★会報では、『OB/OGは今？』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。

～いずれも問い合わせは上記URLまで～

編集後記

コロナ感染症もだいぶ収まってきたので、久しぶりにカウンターパートに会いにフィリピンに行きました。行くたびに街は大きく、きれいになります。今回は、物価の高さに驚き（特に日本円換算時）、少なくとも日本との相対においては経済が発展していることが実感できました。一方、街にあふれる車の渋滞は相変わらずで、交通渋滞の元凶とも言われるジブニー（ジープを改造した乗り合い自動車）もまだまだ頑張っていました。ジブニーに乗ると運転席のところには「BARYA LANG PO SA UMAGA（朝のうちは小銭でお願いします）」と書いてある。相変わらずこの人たちはお釣りも用意しないで商売を始めるのだな、と思い、変わることは変わるけど変わらないことは変わらないこの国に一層の愛着を感じることができた滞在でした。

63年度2次隊 長岡 健朗（フィリピン 獣医師）